

22年貯めた預金で、一気に18種の遊具

岡山・天城保育園、「サーキット遊び」を導入

折りたたみ式鉄棒、幼児用の低床型平均台、カラフルなマットやとび箱、縄付きのなわとびボール……。岡山県倉敷市の天城（あまき）保育園（森分久恵園長、園児171人）は昨夏、22年貯めてきたベルマーク預金から64万円超を使い、18種類もの遊具を買いました。

買い物のきっかけは、同園を訪れた発達支援アドバイザーが提案した「サーキット遊び」。様々な遊具を置き、登る、くぐる、跳ぶなどの動作を組み合わせることで、子どもたちの運動能力の発達を促す方法です。でも園の遊具は古くて種類も少ないのが現状でした。

そこで森分園長が思い出したのがベルマーク。毎年コツコツと集めていましたが、最後にお買いものをしたのは1998年。その後22年間は貯めるだけで、ベルマーク預金は78万円も蓄積されていました。森分園長が保護者でつくる後援会に相談。快諾を得て、各クラスの先生が希望の品を出し合いました。

園近くのグラウンドで10月に開かれた運動会では、



年中組の35人が購入品の一つ、プレイバルーンを使った演技を披露しました。パラシュートのような丸くてカラフルな布を、集団で操作して膨らませたり回したりする遊具です。他の競技でもベルマークで買った品が大いに活用されました。保護者からは「ベルマークがこんな



風に使われるんだと分かりました」という感想があったそうです。森分園長は「10数年の積み重ねが今回の購入につながり、ベルマークのありがたさを実感するとともに、今まで集めてくれた保護者の皆様にも感謝しています」と語りました。

「感謝の気持ちをもって頑張ります」

原発避難の福島・富岡町立富岡第一・第二中(三春校)

今年度の東日本大震災支援対象校、福島県富岡町立富岡第一・第二中学校（三春校）から写真が届きました。

原発事故で避難した富岡町の二校の生徒と一緒に学んでいる学校です。全校生徒は3人。それぞれがCDラジオ、ミニキーボード、バドミントンシャトルを持って、にっこり笑っている姿が写っていました。3人とも2年生で、卒業する来年度末に同校は閉校することが決まっています。設楽芳浩校長は「今回の支援は大変ありがたく、感

謝の念に耐えませんが、大河原康隆教頭は「たくさんの支援を頂いていることに感謝の気持ちを持ち、たくましく、力強く生き抜いてほしい」と話しました。

2011年3月、福島第一原子力発電所事故により富岡町での学校教育の継続は困難となりました。2017年4月に一部の帰還困難区域を除いた町内の避難指示が解除され、翌年4月には「富岡校」が再開。設楽校長は、富岡校と三春校を往復して職務に当たっています。



とび箱、カメラ、大型扇風機…活用しています！

今年度支援したへき地校からメッセージ届く

ベルマーク財団が今年度支援したへき地の学校から、感謝メッセージと購入した備品を活用している写真が届いたので紹介します。

北海道の鹿追町立笹川小学校からは、スポンジと布材でできた3段の「セフティ跳び箱」の写真が届きました。体育の授業で活用しているそうで、高嶋幸太教頭は「低学年や跳び箱を苦手とする児童には、安全に使用することができ、学習意欲が向上しています」。



十勝平野の北西部にある鹿追町は「真冬は氷点下15度くらいまで気温が下がります」（高嶋教頭）とのこと。町の名物は北部の山岳地帯にある然別湖。厳寒期には、凍った湖面上に雪と氷による臨時の村「しかりべつ湖コタン」が作られることで有名です。

長野県の天龍村立天龍中学校は、大型プリンターとデジタルビデオカメラを購入。全校生徒で合唱練習する際にカメラ

を使うと、自分たちの歌声をすぐに振り返って確認できたそうです。11月にあった村の文化祭で、生徒たちは鍛えた歌声を披露したそうです。



ビデオカメラには思わぬ効用もありました。コロナを契機に普及した「リモート」の手法で、東京の村出身者とシンポジウムを開いた際、「カメラをパソコンにつなぎ、生徒一人一人にズームさせて使うことができました」と宮下健治教頭。コロナ禍の中、カメラの出番は今後さらに増えそうです。

島根県の邑南町立矢上小学校からは、子どもたちが逆上がり練習器を使って元気に鉄棒を練習している写真が届きました。他にデジタルカメラや卓上マイクスタンドなども購入しましたが、「使っている姿が分かりやすいから」と、これらの写真を選んだそうで、子どもたちの生き生きとした様子が伝わってきました。

松川成治校長によると、同校の授業は「ふるさと学習」を取り入れているのが

特色です。「地域の自然や産業を活用しての授業です。米作りやお年寄りとの交流をしています」



徳島県の阿南市立椿泊小学校から届いた写真は、11月にあったPTA親子参観日で、財団が寄贈したプロジェクターを使用している場面です。元々あった古いプロジェクターは光源が弱く、映像がはっきりと見えなくて困っていたそうです。



米田茂生校長は「へき地にある少人数校なので、アットホームな雰囲気のある学校

です。プロジェクターは今後も、DVDの視聴などの学習活動に活用させていただきます」と話してくれました。

宮崎県の延岡市立三川内小中学校は、大型扇風機と大判プリンターを活用している写真を送ってくれました。学校があるのは内陸部。「夏は暑く、冬は寒いところ」と小学部の内村貴久教頭。空調の入っていない体育館で、扇風機はとても重宝したそうです。空気を動かすことでコロナ対策にもなります。



同校の校庭フェンスには、「きらきら」「にこにこ」「ぐんぐん」という3つの言葉が大きく掲げられています。「小さい子も含め、みんなで共有できるスローガンです」と内村教頭。その言葉通り、みんなコロナ禍なんかには負けず、きらきらと輝いて、にこにこ笑いながら、ぐんぐん育ててほしいと思いました。